

# 地域と一体で鉄道の活性化に取り組んでいる例（和歌山電鐵）

- 平成15年に南海電鐵が貴志川線の廃止検討を表明
- 存続に向けた住民の動きも踏まえ、沿線自治体が鉄道用地の買取を決定
- 運行主体については、公募により決定され、岡山電気軌道の子会社である和歌山電鐵が運行
- 沿線住民等による支援と観光を中心とした取組により活性化を図っているところ

## 沿線住民等による和歌山電鐵への支援

### 話題性を呼ぶデザイン改装による利用促進

- いちご電車への改装に**サポーターを募集**。**約2,500人以上**の応募あり。
- 貴志川特産の「いちご」**や**地域で成長著しい「おもちゃ」**のデザインと、つり革やベンチシート、家具等、今まであまり木を使わなかったところにむく材を効果的に使用した**車両のリニューアルを実施**。
- 総合事業にて猫駅長をモチーフにした「たま列車」を認定。



<いちご電車>

<おもちゃ電車>

### 話題性を高めることによる利用促進

- 駅に併設する小売店の飼い猫「たま」「ミーコ」「ちび」が、当該駅の駅長や助役に任命され、話題づくりと利用促進を図っている。（「たま」の写真集は有名出版社から発行）



<駅長の「たま」>

出典：和歌山電鐵ホームページ、和歌山大学辻本勝久准教授提供資料等をもとに鉄道局作成

## 貴志川線の年間輸送人員の推移

